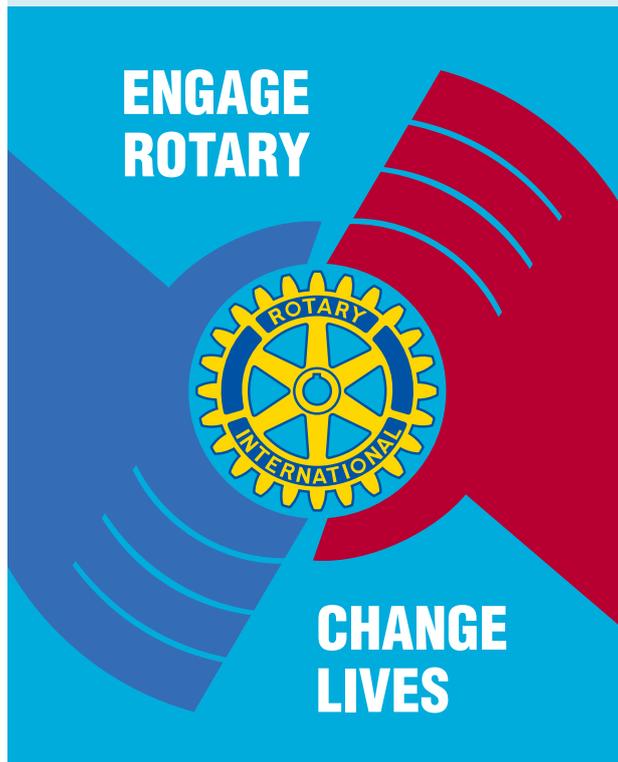


2013 – 2014  
August  
vol. 2

8



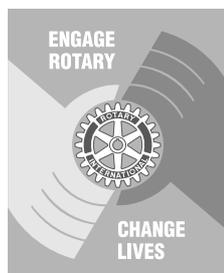
ROTARY INTERNATIONAL  
DISTRICT 2660

# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ガバナー月信8月号

国際ロータリー 第2660地区  
2013–2014年度ガバナー

福家 宏



# 2013-2014 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

## August vol.2

### CONTENTS

---

ガバナーメッセージ（会員増強および拡大月間）	1
会員増強・拡大月間にあたって	2
ガバナーノミネー候補者推薦について	3
GSE派遣団帰国報告	4
青少年交換プログラム 派遣学生募集要項	5
青少年交換プログラム 送別会・歓送会	6
災害支援プロジェクト報告（第26回）	7
インターアクト新入生歓迎会	9
ロータリー奨学生オリエンテーション報告	10
米山奨学制度寄付金30,000円目標設定について	11
文庫通信	13
敬弔／お知らせ	14

# 会員増強・拡大月間にあたって ～プロジェクト3900～

皆様は今、会員維持・増強のために  
どんなことをなさっておられますか？

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

## 福家 宏



世界のロータリアンの数は、過去15年間以上にわたり約120万人程度に留まり続けています。毎年12万人ほど入会して、毎年同数が退会していくためにロータリアンの数は増加の兆しを見せません。日本においては横ばいではなく、減少傾向が続いています。かつて10万人以上を誇ったロータリアンの数は9万人を切り、更に減り続けているのです。このまま減り続けると、日本の3ゾーンのうちどれかが他国と合併させられることにもなりかねません。会員減少の問題は決して楽観は出来ないと思います。

私たちの第2660地区では、昨年高島直前Gが「プロジェクト3900」を立ち上げられ、会員の拡大(新クラブ創立)維持・増強を推し進めて来られました。その結果年初よりも会員数は増加しておりますが、3700人には届いておりません。私もこの「プロジェクト3900」を引き続き推進して参りたいと考えております。

カルヤン・パネルジーR | 元会長も、田中作次R | 直前会長も「日本における会員減少」をとっても憂えておられます。そのような中でR | 理事会は2015年6月末日までに世界のロータリアンの数を130万人にするという決議を致しました。

日本ではこれを受けて、地区の枠を超えた全国レベルでの新会員獲得運動をサクセス・ジャパンとし、田中作次会長のお名前を盛り込んでSAKUJI大作戦と名づけ、これを実施することになりました。当地区内でも多くのクラブ様がこの作戦に賛同して下さっております。ご承知のようにSAKUJI大作戦は、皆様の地域にお住ま

いの方でなくても、ロータリアンに相応しいお知り合いがあれば、その方をその地域のロータリーにどしどし紹介しようというものです。これが成功すれば、日本全体のロータリアンの数の底上げが図れる訳で、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

そして大切なことは会員数の維持です。新しい会員を獲得したならば、もうその日から「退会防止」を心がけて、新会員を守っていかなければなりません。

新会員に出来るだけ早く正しいロータリー情報を提供し、クラブにおいて重要な役割を担うことが出来るように配慮する必要があります。またRIやロータリー財団のプログラムには早い時期から参加させて、ロータリーを実践する(Engage Rotary)ことが出来るよう導いていかなければならないでしょう。

皆様はロータリーがこれからも存続しつづけ、ご自身もロータリアンであり続けたいと思っておられることでしょう。それならばやはり、ロータリアンである私たちは会員減少に歯止めをかけて増強のための活動を始めなければなりません。

会員の維持・増強は誰かに任せては成功しません。会員維持・増強は皆様お一人お一人の責務だと捉えて、今すぐにも本腰を入れて会員増強に取り組まないと、「プロジェクト3900」の成功は難しいと思います。世界や日本、そして私たちの地区やクラブ、そして皆様ご自身のために、会員拡大増強月間には今一度何をすべきかお考えになり、是非とも直ちに行動を起こして下さい、お願い致します。

# 会員増強・拡大月間にあたって

クラブ奉仕・拡大増強委員会 委員長

**吉村 昭** (大阪平野RC)



8月は会員拡大増強月間です。福家ガバナーは、地区の活動ポイント5項を提案され、そのひとつに「会員の維持と増強」を挙げられています。また、地区の会員数を3900人に、クラブの会員数は6%純増を目標とされました。

6月1日(出)、大阪YMCA会館にておこなわれました「R1第2660地区クラブ奉仕・会員拡大増強セミナー」では、第3ゾーンロータリー・コーディネーター/地区研修委員会リーダーの井上バスター・ガバナーに「会員増強とクラブの活性化」をテーマにご講演いただきました。

R1の現状から、クラブの取り組むべき課題等わかりやすくご説明いただき、ご出席いただいた皆様には大変勉強になりました。

また、後半のバズセッションでは、各クラブの人数順で5~6クラブを1グループとし、クラブ会長エレクト、会員増強委員長の皆様に参加いただき、会員増強・会員維持の策を議論していただきました。

そのなかで見えて来た事は、人数の大小で多少悩みの違いはありますが、増強に対しての想いや方法は、各クラブほぼ同じでした。

## 会員増強

- ①会長・増強委員長が、年度目標を掲げ会員から広く候補者を募集
- ②「ゲストの日」を設定し多数の参加者を要請

- ③公開卓話を実施し新入会員の見込み作り
- ④若い会員や女性会員を積極的に発掘
- ⑤パンフレットやHPの充実

## 会員維持

- ①同好会活動を通じて、会員の個人的な付き合いを深める
- ②元会長や在籍の永い会員にも委員長を任命する
- ③入会年度の浅い会員と古参会員で茶話会を開いている
- ④例会を常に新鮮になるよう、朝例会、移動例会を年に数回行う
- ⑤新入会員にはカウンセラーを3人にする

会員の維持と増強には絶対的な有効策はありません。会長、会員増強委員長の強い決意とリーダーシップを発揮しクラブ全員で取り組むこと、これが最高の策です。

時代の変化と共に街が変化し、新しい企業や職業が生まれ、ロータリーへの新入会員の方も変化して来ています。若い世代の方々にどのように入会していただき、ロータリーの魅力をどのように伝え、クラブの将来像をどう描くかによって、クラブが活性化していくのでしょうか。

変えてはならないことと、変えなければならないことを明確にし、素晴らしいロータリアンを一人でも多く入会いただけるようご努力宜しく願いいたします。

# 2016-2017年度 ガバナー・ノミニー候補者推薦について

国際ロータリー第2660地区 ガバナー **福家 宏**  
地区ガバナー指名委員会 委員長 **高島凱夫**

## ガバナー・ノミニー候補推薦書提出の要請

RI細則13.010の規定及び地区ガバナー指名委員会の規定により地区内の各クラブで2016年-2017年度ガバナー・ノミニー候補者がおられましたら、10月31日までにガバナー指名委員会委員長(地区ガバナー事務所)宛に必着するよう提案して下さい。

なお、地区ガバナー・ノミニーの資格条件については、

国際ロータリー細則第15条15.070、15.070.1~15.070.6の条件を満たす者であることを要します。

また、地区ガバナー指名委員会が地区ガバナー・ノミニー候補者の選択を行うにあたっては、その選択の範囲は地区内クラブによって提案された氏名に限定されるものではない、ということをご承知下さい。

国際ロータリー細則第13条13.020.5(参照)

# RI第1890地区への GSE派遣団帰国報告

団長

**吉崎広江** (東大阪東RC)



派遣先：R I 第1890地区 (ハンブルク市、シュレーシュビヒ・ホルシュタイン州、ニーダーザクセン州北部)

派遣期間：2013年5月21日より6月21日まで

地区ガバナー：Henning Kramer

訪問クラブ (担当日)：

- 9 RC Hamburg-Hafencity (21-27)
- RC Wyk/Fohr (27-29)
- RC Amrum (29-31)
- RC Oldenburg (31-04)
- RC Kappeln (04-08)
- RC Rendsburg / RC Mittelholstein (08-13)
- RC Buchholz i.d. Nordheide (13-16)
- RC Bordesholm (16-20)

総プレゼンテーション数：

10回 (各クラブに1回ずつと、6/8地区大会 in Kiel)

総職業研修数：5日 (ただし、時間は個人別に異なる)

訪問施設 (全員で訪問した施設)：

ハンブルク市庁舎 (市担当者よりプレゼンあり)、ブーフホルツ市長訪問、オルデンブルク市長訪問、カッペルン市長訪問、エアバス (工場見学)、ミニチュア博物館、IBA (国際建築展示場)、教会 (6箇所)、ハーフェンシティ見学、バイオガスファーム (2箇所)、風力発電所 (2箇所)、太陽光発電ファーム (2箇所)、美術館 (2箇所)、博物館 (4箇所)、灯台ツアー、風車ツアー、城・邸宅 (3箇所)、療養所、キール運河鉄橋、ELAC (スピーカーメーカー)、エッペンドルフ (工場見学)、アウトレットセンター、和牛牧場

アクティビティ (全員で参加した活動)：

バルト海湾岸クルージング、原野をめぐる馬車ツアー、リュベック市観光、フレンスブルク観光、デンマーク訪問

ホストファミリー数：31 (うちホテル1、ドミトリ1)

(まとめ)

乗り換えを含め16時間かかってやっと到着したハンブルク空港では「ようこそハンブルク」という日本語の

看板を手に、ガバナーのクラマーさんをはじめ、最初の受け入れロータリークラブのみなさん、以降のホストファミリーのみなさんが花束を手に迎えてくださいました。思えば、きつい日程のプログラムではありましたが、出会うすべてのみなさんの暖かさとおしやすさが、この時の暖かい歓迎に現れていたのだと思います。

私達のプレゼンは、地区紹介、大阪紹介、自己紹介、震災支援の現状説明、歌 (上を向いて歩こう) の5本立てで長いものですが、ほとんどのところが夜間例会であったため、時間の制約なく全部を披露することができました。時には歌を聞き、東北の様子に涙してくださるロータリアンの方々に触れるうちに、私達も現在起こっているドイツ南部の洪水に対し、何かできる事がないのかと感じるようになりました。

結局最後のお別れパーティで、担当クラブの方のご好意で着物をチャリティオークションすることができました。国がちがっても、ロータリアンの気持ちは同じとここでも感じた次第です。

最初の1週間は凍えるような気候ではありましたが、どんどん進化を続ける都市ハンブルクの「今」に触れ、その後の2週間は、良い天候の中、北海からバルト海へと沿岸の島やフィヨルドの自然に触れ、最後の1週間は内陸をめぐるこれまでの訪問を振り返り私達から何かを発信できた良い旅であったと思います。

詳しい報告は、今後団員と一緒に詳細版をまとめる予定ですが、この研修に参加したことで、5人のメンバー全員が忘れがたい思い出と一生の経験を得ることができました。両ガバナーには、素晴らしい機会をいただいたことを御礼申し上げます。また、すべてのプレゼンテーションにもれなく出席して下さった第1890地区GSE委員長のJanusさん、送り出してくださった第2660地区GSE委員会のみなさん、受け入れて下さったすべてのロータリアンとご家族、推薦クラブのみなさま方のご支援があつてのことと、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

Vielen Dank!

# 青少年交換プログラム 2014-2015年度 派遣学生募集要項

青少年交換委員会 委員長

**辻村和弘** (大阪大手前RC)



来日学生と派遣学生の東京研修旅行

青少年交換プログラムは、1920年代にヨーロッパでロータリアンの子供同士を交換し、互いにホームステイさせあい、我が子のように育ててみようという試みに端を発しています。子どもたちは異国という厳しい環境の中、好意に溢れたロータリアンの庇護のもとで、異文化にふれあい、生活することで互いの立場や違いを認め、尊重する真の国際人として成長していきます。そしてこのプログラムは、次世代の青少年の育成という有意義な奉仕活動として認められ、1972年にRIの定める正式プログラムとなりました。近年、世界中で年間7,000人の16歳から18歳の高校生が参加しています。

こうしたプログラムの成り立ちから、青少年交換プログラムのみ、ロータリアンの子弟参加が認められています。また、ロータリアンの子弟のみならず、関係者の子弟、または来日学生達がお世話になった高等学校からの推薦などにより応募できます。

次々年度(2014-2015年度)の青少年交換学生を下記の要領で募集いたします。各クラブにおかれましては、このプログラムの次世代を担う青少年の育成という趣旨と目的をご理解いただきまして、是非ともご参加していただきますようお願いいたします。

1. 主な交換相手国  
アメリカ、カナダ、フランス、フィンランド、オーストラリア、スイス、スウェーデン、台湾、ポーランド
2. 交換期間  
2014年8月に出発し、期間は約1年間。  
採用及び派遣先は青少年交換委員会において決定します。
3. 交換内容  
各々の派遣先のご家庭でホームステイをし、現地の高等学校に通学します。  
現地の言葉を学び、人々と交流し、その文化や習慣、歴史を学ぶと共に、日本の文化や伝統、国情を伝え、青少年大使としての国際理解と親善に努めます。
4. 費用  
プログラム参加費(100,000円)、派遣先までの往

復旅費、保険料、現地での諸雑費は本人(保護者)の負担とします。現地での生活費、教育費(高校)の全額及び少々の小遣いは、ホストロータリークラブが負担します。

5. 応募資格
  - 1) 出発時、16～18歳の高校生であること。
  - 2) 健康で礼儀正しく、水準以上の学力を持ち、外国語の習得に意欲的な学生であること。学業成績は、学年で上位1/3以内の者。(在学高校により差があるので、相談に応じます。)
  - 3) 学校長の推薦と、1年間の派遣先での修学許可が得られる学生であること。(派遣中における現在の学校での単位取得等に関しましては、各学校とご相談下さい。また、派遣相手国での学校の単位は基本的には取得できません。)
  - 4) ロータリークラブの推薦が得られる学生であること。
6. 応募期限  
2013年8月31日(土)(期限を厳守願います。)
7. 応募方法  
応募者は、スポンサークラブを通じて地区青少年交換委員会またはガバナー事務所にお申込みください。  
なお、申込書はガバナー事務所までご請求ください。
8. 来日学生の受入  
原則として、派遣学生を送出したロータリークラブは、交換相手国より来日学生を受け入れなければなりません。(来日学生受入クラブには、委員会から支援金として50万円(2012-13年度実績)程度が支給されます。)
9. 短期交換プログラム  
1年間の長期交換のほかに、夏休みに約1ヶ月づつ交換する短期交換プログラムもあります。

《お問い合わせ》

国際ロータリー 第2660地区 ガバナー事務所

〒541-0052

大阪市中央区安土町1-5-11 トヤマビル東館6F

Tel. 06-6264-2660 Fax. 06-6264-2661

# 青少年交換プログラム 送別会・歓送会

青少年交換委員会 直前委員長

**角谷真枝** (茨木西RC)



6月15日17時30分より、市内シティプラザ大阪ホテルにて来日交換学生5名(1名は6月3日に帰国)、派遣学生4名(1名は修学旅行中の為欠席)の為の歓送会がおこなわれました。

まず最初に、過去に地区の青少年交換委員をつとめられ、ホストファミリーのご経験も豊かな泉博朗GEより暖かいご挨拶を頂きました。続いて、受け入れ校、ホストファミリーの方々に委員長より感謝状贈呈を行いました。

引き続き、8月初旬にはそれぞれの派遣国に出発する派遣生が、パワーポイントを使用し、自己紹介を行いました。これは派遣国での予行演習を兼ねています。彼等の10か月間のオリエンテーションは、素晴らしい成果を示してくれました。引き続き、派遣生各人が自己アピールの為のパフォーマンスを披露、前田真樹君(寝屋川RC)栗正絵美さん(城東RC)は二人でピアノの連弾演奏、高橋収君(茨木西RC)は駒まわし、重富崇人君(守口RC)は空手の型で笑いをとっていました。

続いて6月30日には全員帰国してしまう来日学生の

登場です。アメリカ・カリフォルニアからの来日生アンドレ・レイト君は一段と上手になった日本語で感謝を述べ、来日時には日本語が全く喋れなかったフランスからのヨアン・ドアイオン君は、大阪弁を交えて「又日本にきます」と挨拶。アメリカからのクリスティーナ・ピッコロさんリンゼー・ヤムリックさんも1年間お世話になった方々に感謝を述べました。

一番圧巻だったのはフィンランドからの来日生サラ・カウピネンさんです。彼女は白地に赤の花模様の一重の和服を着て、(なんと驚くことに、彼女は一人で着物の着つけができるのです)インターネットで聞いて覚えたという「月光」の曲を、ピアノで堂々と演奏しました。あらためて、今世界で注目されている、フィンランド教育の成果の高さに驚かされた次第です。そして今年はいよいよ来日生への修了書授与を、ローテックス発案で日本式の卒業式のように「揚げば尊し」を演奏して行いました。

ローテックスの皆さんから、金本委員、委員長の私、今井事務局長に花束と記念品の贈呈があり、最後は「手につかないで」を合唱し会を終了しました。



# 災害支援プロジェクト報告 (第26回)

災害支援プロジェクト委員長

**高島凱夫** (大阪中之島RC)

## 1. 災害支援プロジェクト寄付送金口座

りそな銀行 大阪営業部 普通 1527285

口座名義：第2660災害支援 会計 片岡基博

(ダイニロクロクゼロサイガイシエン カイケイ カタオカモトヒロ)

## 2. 災害支援地区基金の状況 (2013年6月30日現在)

【収 入】

(単位:円)

	地区クラブ名および寄付者名	寄付金額	備 考
1	岡部年度からの繰越	708,892	
2	大阪中之島RC	57,750	
3	大阪城南RC	15,460	
4	利息	5	
5	大阪東南RC	500,000	
6	大阪中之島RC	100,000	
7	寝屋川RC	37,000	
8	大阪咲洲RC	30,000	
9	大阪ユニバーサルシティRC	300,000	
10	大阪城南RC	45,440	
11	国際大会日本人朝食会余剰金	14,547	
12	井上暎夫PG	30,000	
13	寝屋川RC	13,000	
14	八尾中央RC	77,000	
15	大阪帝塚山RC	100,000	
16	大阪城南RC	10,000	
17	大阪フレンドRC	46,000	
18	千里RC	330,000	
19	大阪城南RC	800,000	
20	PSC(財団奨学生OB)	3,000	
21	東大阪東RC	100,000	
22	八尾東RC	50,000	
23	大阪ユニバーサルシティRC	50,000	
24	豊中-大阪国際空港RC	50,000	
25	大阪リバーサイドRC	50,000	
26	大阪西南RC	100,000	
27	大東RC	50,000	
28	大阪中央RC	50,000	
29	大阪難波RC	50,000	
30	大阪フレンドRC	50,000	
31	東大阪みどりRC	50,000	
32	大阪西北RC	50,000	
33	大阪うつぼRC	50,000	
34	くずはRC	100,000	

	地区クラブ名および寄付者名	寄付金額	備 考
35	寝屋川RC	50,000	
36	大阪咲洲RC	50,000	
37	茨木西RC	50,000	
38	茨木RC	50,000	
39	豊中千里RC	50,100	
40	利息	139	
41	大阪北梅田RC	50,000	
42	香里園RC	50,000	
43	八尾中央RC	50,000	
44	大阪大手前RC	100,000	
45	東大阪RC	100,000	
46	大阪心斎橋RC	50,000	
47	高槻西RC	50,000	
48	大阪城南RC	6,417	
49	大阪フレンドRC	6,270	
50	八尾RC	50,000	
51	高槻RC	470,000	プロジェクト中止返金
52	大阪イブニングRC	50,000	
53	大阪城南RC	418,425	災害支援No.51支援金
54	大阪城南RC	7,117	
55	ガバナー事務所募金箱	5,527	
56	大阪船場RC	85,792	
57	大阪ユニバーサルシティRC	60,000	
58	大阪城南RC	6,685	
59	大東中央RC	117,874	
	合 計	6,052,440	

### 【支 出】

(単位:円)

	地区基金支出内容	金 額	備 考
1	豊中RC	158,600	寄付金一部返金
2	振込手数料	600	
3	千里RC	650,000	地区基金申請No.46
4	振込手数料	600	
5	熊谷教材社 (八尾中央RC申請分)	150,000	地区基金申請No.47
6	振込手数料	600	
7	高槻RC	470,000	地区基金申請No.48
8	振込手数料	600	
9	大阪ユニバーサルシティRC	250,000	地区基金申請No.49
10	振込手数料	300	
11	千里メイプルRC	208,000	地区基金申請No.50
12	振込手数料	600	
13	水沢東RC	836,850	地区基金申請No.51
14	振込手数料	600	
15	石巻東RC	441,000	地区基金申請No.53
16	振込手数料	600	
17	2520復興支援特別委員会	1,680,000	地区基金申請No.52
18	振込手数料	600	
	合 計	4,849,550	

### 【残 高】

(単位:円)

預金残高	1,202,890	2013年6月30日現在
------	-----------	--------------

# 第2660地区 インターアクト新入生歓迎会

インターアクト委員会 委員長

**松井隆雄** (大阪天王寺RC)



6月2日(日)、朝から曇り空で小雨がパラついていましたが、開会式が始まる頃には雨もあがり、予定した活動を終えることが出来ました。

大阪府羽衣青少年センターに大阪桐蔭・浪速・金光八尾・清風・相愛・四天王寺中学・高校のインターアクター76名、顧問の先生11名、ローターアクト3名、高島凱夫ガバナー・泉博朗ガバナーノミニーはじめ26名のロータリアン、事務局1名合計117名が集まり新入生歓迎会を行いました。

中野秀一委員長から新入生に対する歓迎の言葉とインターアクトの活動内容等についての説明があり、高島ガバナーから青少年の健全な育成にインターアクトクラブの果たす役割の重要性と期待を込めた激励の言葉が贈られました。

まず最初にインターアクター達はセンターのスタッフ(職員)から焼板造りの手ほどきを受けました。竈に薪の入れ方、火の付け方、板の焼き方、板の洗い方等懇切丁寧に指導を受けて作業に取りかかりました。インターアクター達は薪に火を付けたり、たわしで焼いた板を水で洗うなど、初めての体験に戸惑いながらも、側にいたロータリアンの手助けを受けながら一生懸命取り組んでいました。きれいな服が汚れ、顧問の先生に汚れを取って貰っている姿も見受けられました。

焼板は乾かして後で絵付けの作業を残し、昼食のバーベキューの準備にかかりました。センターで用意された肉や野菜(キャベツ、人参、タマネギ)を炭火で網で焼き、それぞれグループごとに団欒しながら食していました。ロータリアンが日ごろの実力を発揮し、焼奉行をしているグループもあり、一方大食漢あり、食傷気味の生徒もいてバラエティーに富んだ楽しい食事会でした。

食事の後片付け後、焼板に絵付けの作業に取りかかりインターアクター達は思い思いの絵やら文字を描いていました。「インターアクト」と書かれた焼板が多く見

られました。

その後、公園内をグループごとに分かれ約50分間のウォークラリーを行いました。このころになると新入生も含め学校の枠を超え、和気藹々とインターアクトの仲間の輪が拡がり繋がっていきました。新入生歓迎会の目的が達成できた思いがしました。これを機にインターアクトクラブの奉仕活動が活性化されていくことを期待しました。

若いインターアクター達は元気が有り余っていましたが、ロータリアンには若干顔に疲労のいろが出てきていました。閉会式では泉ガバナーノミニーの問いかけに全員「楽しかった」と声をそろえて答えていました。

次年度当番校(幹事校)の四天王寺高等学校・中学校に地区旗の引継ぎがなされ、新入生歓迎会は無事終了しました。

最後になりましたが、このような素晴らしい新入生歓迎会を企画、運営して頂きました浪速高等学校・中学校のインターアクトクラブの皆さま、顧問の先生、大阪帝塚山ロータリークラブの皆さま、そして裏方で支えてくださいましたガバナー事務所の栗正久美様に心から感謝申し上げます。

今後ともインターアクトクラブの活動に、ご理解とご支援をよろしくお願い致します。



# 2013-2014年度 ロータリー奨学生オリエンテーション報告

2012-2013年度  
財団奨学金・学友委員会 委員長

**北 埜 登** (東大阪東RC)



日 時 2013年6月2日(日)

場 所 ウェスティンホテル大阪

出席者 高島G、大谷財団部門次年度顧問、福家GE、泉GN、溝畑DRFC、宮里地区補助金小委員会次年度委員長、梅崎次年度担当グループリーダー、田中提唱クラブロータリアン(大東RC)、福田ロータリー奨学生、宮尾ロータリー奨学生、財団奨学金・学友委員会副委員長、委員 他

2012-2013年度地区財団奨学金・学友委員会と2013-2014年度地区補助金小委員会奨学金・学友・ロータリー平和フェロシップ担当グループ第2回合同委員会開催後に、ロータリー奨学生の為のオリエンテーションを開催しました。

ロータリー奨学生は、オリエンテーションに参加しな

ければならない義務があります。2013-2014年度の奨学金制度は大きく変更になり、グローバル補助金による奨学生(ロータリー奨学生)は昨年10月に募集、11月に書類選考、面接試験を行い下記の2名のロータリー候補生を選考し今年の5月にロータリー財団に申請受理、承認されました。

## 福田真弓 ロータリー奨学生

重点分野：疾病予防と治療

留学機関：Harvard School of Public Health

支援期間：1年間

提唱クラブ：千里RC

受け入れクラブ：Evening Downtown Boston RC

奨学金：74,000ドル(内クラブ拠出金4,000ドル)

## 宮尾真梨子 ロータリー奨学生

重点分野：平和と紛争予防／紛争解決

留学機関：Monterey Institute of International Studies Graduate School of International Policy and Management

支援期間：1年間

提唱クラブ：大東RC

受け入れクラブ：Carmel by the Sea RC

奨学金：43,400ドル

三好副委員長の司会で、北埜委員長の趣旨説明、ロータリー奨学生、提唱クラブロータリアンの紹介で始まり、続いて高島ガバナーのロータリー奨学生を励ます挨拶後、それぞれのロータリー奨学生に高島ガバナーからロータリー奨学生名刺、ロータリー奨学生徽章、受け入れクラブへのお土産バッジを贈呈しました。

次に福田、宮尾ロータリー奨学生からそれぞれの近況報告、留学後の進路等について話がありました。

引き続き、阪上副委員長よりロータリー奨学生、提唱クラブロータリアンの方々に、ロータリー財団の支援の下に留学していることを常に念頭に置く事、留学中の注意事項や責務について、また留学後も学友に入りロータ

リーと関わりを持つ事などの説明を行いました。

最後に、溝畑ロータリー財団委員会委員長より閉会の挨拶があり、ロータリー奨学生の為のオリエンテーションを閉会しました。

会場を移し、先程のオリエンテーションとはがらりと雰囲気が変わり、PSCの方々も加わり、泉ガバナーノミニの乾杯の発声で歓送会が始まりました。

ロータリー奨学生もようやく緊張感から解放され、PSCの方々の留学経験談に耳を傾け、多くの質問をしていました。

最後に阪上副委員長のロータリー奨学生へ激励と閉会の言葉で、歓送会は和やかな雰囲気で終了しました。

# 2013-2014年度 米山奨学制度寄付金30,000円目標設定について

米山奨学委員会 委員長

**西谷雅之** (大阪城南RC)

平素は米山奨学制度に対し多大なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2013-2014年度米山奨学制度への寄付目標額30,000円の設定に関しまして、様々なご意見を頂戴しておりますが、中でも「もっと詳しく説明せよ」とのお言葉が多数寄せられておりますので、ここに再度ご説明させていただきますと共にご理解とご協力をお願い申し上げます。

まず、既に御承知のことと存じますが改めて米山奨学制度そのものの成り立ちについてご説明させていただきます。

米山奨学会は60年の歴史を持つ日本のロータリー独自の国際奨学事業であります。この国際奨学事業は1952年、日本で最初に設立されたクラブである東京ロータリークラブが、日本のロータリーの創始者と呼ばれる米山梅吉氏の功績を記念して始まりました。戦後の復興の道を歩み始めた当時の日本にとって、二度と戦争の悲劇を繰り返さない為に世界の国々との人物交流を深める必要性を多くの人々が感じていた時代背景のもと、ロータリー米山記念奨学事業は「留学生が平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築く」事を目的に始められ、『日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業』と高く評価され全国に拡大し、国際ロータリーが認める日本で唯一の日本の全ての地区が関わる「他地区合同活動」となり、日本最大の民間国際奨学事業として現在に至っております。

しかしながら、奨学生の採用数を見ると2005年にそれまでの1,000名から800名に削減、特別積立財産を取り崩して2012年度採用までの8年間800名を維持してまいりましたが、2013年度採用より更に100名削減の700名となっているのが現状です。

当R12660地区に目を向けますと、2008年には42名の採用と地区全クラブ数の約半分のクラブに奨学生

を送りこむ事ができる採用数を割り当てられておりましたが、2013年度は新規採用28名と継続奨学生10名の38名となっております。

地区米山奨学委員会では、地区84クラブ全てに奨学生を送り込むという目標を掲げております。採用奨学生の中で最も多いのは大学院生で、月140,000円の支給を受けていますので、それをもとに試算いたしますと、

奨学生1人にかかる年間の費用

$140,000 / 月 \times 12 \text{ か月} = 1,680,000$

全84クラブで必要となる年間の費用

$1,680,000 / 人 \times 84 \text{ クラブ} = 141,120,000$

当地区ロータリアンの数を3,700名として

おひとり当たりをお願いしたい年間寄付額

$141,120,000 \div 3,700 \text{ 名} \approx 38,141 \text{ 円}$

これが、3月23日に開催されたPETSや4月27日開催の地区協議会でお話しさせていただきました「おひとり4万円の寄付を頂ければ84全てのクラブに奨学生の面倒を見ていただけるようになる」との私の発言の根拠です。しかし、現状を考えた場合いきなり倍の4万円はどうだろうかとの意見が委員会内にもあり、段階的と言う事で3万円とさせていただきました。

一方、ここ数年地区米山奨学委員会ではロータリアンおひとり年間2万円の寄付をお願いしてまいりました。内訳は普通寄付5,000円+特別寄付15,000円です。これは達成されてきたのでしょうか？残念ながら過去5年間を見ても一度も達成されておられません。2011年の個人平均寄付額は19,384円です。

クラブ別にみますと、

20,000円達成クラブ36 (達成率43.3%)

未達成かつ10,000円未満10

うち1クラブは5,000円未満です。5,000円未満と言

う事はお願いした普通寄付にも達していないと言う事です。確かに、普通寄付は各クラブで金額を設定し会員数分送金していただく寄付金です。義務でもありません。しかしながら、1967年に財団法人の認可を申請した際、安定財源が無い為認可に難色を示す文部省(当時)に対し、普通寄付金による一定収入が見込めると説得して、国内全クラブから普通寄付の確約をもらう事を条件に設立許可を得た経緯があります。

皆様の中には20,000円達成を目指す方が先ではないかとお考えの方が居られるかもしれません。しかし、従来通り20,000円の目標を提示していたらここまで皆様の関心を引く事ができたでしょうか。現状に目を向け耳を傾けていただけたでしょうか。また仮に個人平均

20,000円が達成されても増えるのは220万円強、一人分の枠増に過ぎません。全84クラブに奨学生をという地区委員会の目標にはほど遠いのです。そしてジリ貧になりつつある米山奨学制度の現状も変わらないのです。

当地区は地区内に47の指定有資格校が存在し、現在24校を指定校としております。これは他地区に比べてはるかに学校数が多く、米山奨学制度にとって恵まれた環境にあると言えます。また、当地区の元R1理事・近藤PGは米山記念奨学会の副理事長です。米山奨学制度に造詣と理解の深いPGを擁し、環境的にも恵まれた当R12660地区から再度「日本で唯一の他地区合同活動」という冠にふさわしい米山奨学会とすべく、ご理解とご協力をお願いする次第です。

# 文庫通信 (310号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約23,000点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

## ロータリーの資料より

- 『リーダーシップ』について  
深川純一 2013 13p (D.2760 地区大会記録誌)
- 「古澤文作・米山梅吉・和田菊松に関する三題話」  
神崎正陳 2013 5p (D.2550 月信)
- 「ロータリーの初心を訪ねて」  
安平和彦 2013 16p (D.2680 西播第2グループIM報告書)
- 「元気なクラブになるために(会員増強・維持)」  
桑原 茂 2013 9p (D.2500 地区大会報告書)
- 「決議23-34」  
鈴木 宏 2013 6p (D.2550 月信)
- 「ロータリーの楽しみ方」  
■野孫左エ門 2013 1p (D.2620 月信)
- 「クラブ活性化の戦略計画」  
山下皓三 2013 2p (D.2730 月信)
- 「和訳『ロータリーの綱領』が変わります」  
木村大三郎 2013 2p (D.2670 月信)
- 「米山梅吉と5人の群像」  
宮崎幸雄 2013 3p (米山梅吉記念館館報)

[以上申込先：ロータリー文庫]

## ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階  
TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>  
開館 午前10時～午後5時 休館 土・日・祝祭日

## 敬 弔

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

**篠原 耕一** 会員（大阪梅田RC）

2013年 7月10日 逝去（享年80歳）

会員選考理事、  
社会奉仕委員長、雑誌委員長  
職業分類委員長、広報委員長

米山功労者（マルチプル）  
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー  
ベネファクター

## お知らせ

### ■事務局移転

大阪ネクストロータリークラブ

〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-6-12 小学館ビル スタジオB&M内  
TEL : 06-6341-2285 FAX : 06-6348-1164 Eメール : osaka.next@gmail.com

大阪アーバンロータリークラブ

〒533-0005 大阪市東淀川区瑞光4-4-28 大阪冶金興業株式会社内  
TEL : 06-6328-1345 FAX : 06-6328-1380

### ■ホームページ リニューアル

高槻東ロータリークラブ

<http://www.takatsukieast-rc.org>

### ■Eメールアドレス変更

大阪東南ロータリークラブ

[osktounanrc@gmail.com](mailto:osktounanrc@gmail.com)

## 月信編集委員会からのおねがい

- ガバナー事務所への月信に関するご連絡は、FAXまたはE-mailにてお願い致します。折り返し、できるだけ早くご連絡致します。
- 投稿は原稿(写真付きの場合は一緒に添えて)を掲載月の前々月20日までに、事務所必着でお送り下さい。原稿はなるべくパソコンでの作成をお願い致します。掲載の採否、字数の整理、並びに止むを得ない掲載月の変更等につきましては、月信編集委員会にご一任下さい。
- 物故会員のご連絡は、専用の用紙にてFAXをお願い致します。
- 今年度の月信につきましては、各クラブ理事・役員・事務局・備品用に、各クラブの会員数に応じて部数を設定し、無料配布致します。また、ご希望の会員には有料(年間2,200円・1冊200円)配布させていただきますので、出来るだけ多くの方のお申込みをお待ちしております。

### 月信編集委員会

- ガバナー 福家 宏
- 地区代表幹事 山田 正雄
- 地区副代表幹事 中井 敬和
- 担当地区幹事 吉本 憲司
- 担当地区幹事 山本与志弥
- 事務局長 栗正 久美

2013—2014年度  
国際ロータリー 第2660地区

## ガバナー事務所のご案内

### ●事務局スタッフ

ガバナー	福家 宏
地区代表幹事	山田 正雄
地区副代表幹事	中井 敬和
事務局長	栗正 久美
事務局員	春名 志保
	奥田 純子
	井上 望美

### ●所在地

〒541-0052  
大阪市中央区安土町1-5-11  
トヤマビル東館6階  
TEL 06-6264-2660  
FAX 06-6264-2661  
E-mail gov@ri2660.gr.jp

### ●ホームページ

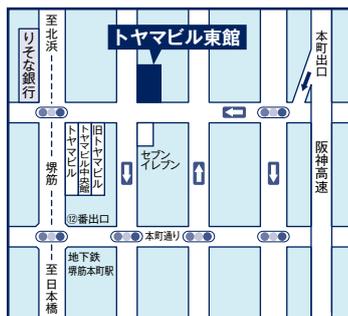
<http://www.ri2660.gr.jp/>

### ●勤務時間

9:30~18:00

### ●休日

土曜、日曜、祝日  
夏季  
2013年8月13日(火)~  
2013年8月18日(日)  
年末年始  
2013年12月28日(土)~  
2014年1月5日(日)



ガバナー事務所に会議室を併設しております。

最多 36名

詳細はガバナー事務所までお問い合わせください。

# ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2660 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

### 国際ロータリー 第2660地区

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-5-11 トヤマビル東館6階  
TEL : 06-6264-2660 FAX : 06-6264-2661 E-mail : gov@ri2660.gr.jp

### Rotary International District 2660

Toyama Bldg. East 6F, 1-5-11 Azuchi-machi, Chuo-ku, Osaka 541-0052 Japan  
TEL : +81-6-6264-2660 FAX : +81-6-6264-2661 E-mail : gov@ri2660.gr.jp